

『第5回 ISOシステムの成功・失敗例』

(株)環境セキュリティ・システム研究所 代表取締役 米ヶ田 健司

前月号(第4回ISOシステム導入のメリット・デメリット)に示す“**メリット**”が出ている会社は成功例、“**デメリット**”ばかりの会社は、失敗例というのが単純な答えとなるかもしれませんが。しかし、そう単純な話ばかりではありません。

結果として“**メリット**”が出ている“**運用**”がうまく行っていないと考えている会社は以外に多いのです(“**デメリット**”ばかりの会社でうまく“**運用**”されているという話は聞きませんが)。

また、“**経営者・管理者**”にとって成功しているということと、“**一般社員**”にとって成功している、上手くいっているということとは、違うこともあります。

そこで、今月号では、“**運用**”面での失敗例や成功例について、触れてみたいと思います。

失敗事例に象徴されるキーワードは、「形式主義化」「文書の山」「ISOの為に仕事をしている」です。

審査で指摘を受けないためだけの、“**文書**”を作り、“**実行**”し、“**記録**”している状況です。誰も(一般社員も)仕事に役立っているとは思っていません。面倒で無駄なことだと考えています。従って、折角決めたルール(=文書や基準)も形だけで本当には守る気はありません。“会社のルール(=文書や基準)なんて守らなくても構わないものだ”というルールが出来上がります。ISOに取り組み前に文書や基準が無かった時より、企業風土は低下します。

ひとり経営者だけが、うちはISOを取っている会社だから立派な会社だと思い込みます。

成功事例で象徴されるキーワードは、「ISOマネジメントの経営戦略化」、「責任と権限の明確化」、「もうかる」です。

一般社員にとっては、「もうかる」ことは、仕事がやり易くて、やりがいがあるようになることでしょうか。

経営者・管理者にとっては、業種・業態に合った、防衛的な“**守り**”の側面と経営戦略的な“**攻め**”の側面を上手くバランスでき、ISOを企業活動の制約要因と捉えるのではなく、戦略的にポジティブに取り入れられれば成功となるでしょう。具体例は、前月号の導入のメリットを参考にしてみてください。